

調査研究の概要

【目的】
令和４年度調査研究業務の成果を土台とし、他都市事例の調査と札幌市の地区図書館の現況調査を行い、地区図書館の機能と業務内容についての調査研究を踏まえ、札幌市の地区図書館の将来像について提案すること。

【業務実施業者】
丸善雄松堂株式会社

他都市調査

政令指定都市との比較（統計）

・蔵書冊数

：政令指定都市20市中5位

⇒人口で割ると、20市中16位

・資料費決算

：政令指定都市20市中11位

⇒人口で割ると、20市中20位

・購入冊数

：政令指定都市20市中18位

⇒人口で割ると、20市中20位

札幌市は人口が多いため、人口で割ると低めの数字になってしまう。

拠点図書館

・さいたま市…10区に25館の地区図書館。西区を除き各区に拠点図書館を位置付け。

・東京都北区…３エリアに分けてそれぞれに拠点図書館を配置。

・名古屋市…「なごやアクティブライブラリー構想」で再編を進める。市域を５ブロックに分け、各ブロックにアクティブライブラリー、コミュニティライブラリー、スマートライブラリー、サービスポイントを配置。具体化すると、拠点の館から離れて不公平に感ずる区が生じてしまい、推進するにはハードルが高い。

他都市におけるサービス・活動例

◇乳幼児サービス

恵庭市…１歳半の時に本を提供するブックスタートプラス

滝川市…母子手帳でブックスタート事業をお知らせ

東京都北区…ブックスタートフォローアップのイベント

◇児童サービス

さいたま市…学校支援センターは北浦和図書館に専用の資料を用意し支援

文京区…学校図書室への職員派遣

恵庭市…図書館による学校図書室運営

◇ＹＡサービス

品川区…地域の学校の存在を意識し、一部図書館でＹＡ重視

◇働く世代

さいたま市…中央館でビジネス支援資料を充実させ、地区図書館運営も支える

◇運営手法

市民グループと向き合うには直営が望ましいとする自治体がある一方、指定管理者と信頼関係を維持し長期間雇用された職員の知識が運営に活用されている自治体もある。

◇カフェが施設の顔に

入口付近の目立つ場所にカフェを整備し、居心地良い図書館にする例が増えている。

地区図書館の調査

【調査目的】
学びや情報収集だけでなく、くつろぎや交流の場としても望ましい空間について検討する。

【調査方法】
①活動状況のヒアリング、②施設現況の実見調査

東札幌図書館

・単独館。エリア特性を勘案した独自企画の展開を検討。

・周辺に病院が多く立地している地域特性から、医療機関、高齢者施設との連携を強く意識。「人生100年時代」やがんに関する展示など。

・同じ地下鉄東西線にある図書・情報館やえほん図書館の補完を意識。

<施設実見調査>

・１階に図書が集約されているため高書架中心で見通しが悪く、狭隘な印象が強い。

・カウンターと事務室が離れているため、効果的な運営のためには改善が必要。

・２階はゆったりとした開放的な雰囲気。

厚別図書館

・複合施設内。駅から徒歩５分。

・副都心：新札幌にあり、地区図書館の中で来館者が１番多い。

<施設実見調査>

・図書を中心としたスペースが１階、書庫・閲覧室が２階、とフロアが分かれており、総合庁舎の共用部を介して繋がっている。調べものや読書をする際には貸出手続きを行わないと閲覧室に持ち出せないのがデメリット。

・雑誌新聞エリア、児童エリアの区切りが不明瞭で施設の配置がわかりにくい。

	メリット	デメリット
単独館 (東札幌)	・出入口を１か所に集約し、利用者の出入りを把握することが容易 ・主カウンターを１か所に集約することが可能で、合理的に運営可能 ・１階と２階で、音の制御や諸室のゾーニングが明快にできる。	・開架書架室と集会室等のフロアゾーニングの面積比率がアンバランスになりやすい。 ・ＥＶ等のバリアフリー設備に係る動線に注意を要する。 ・２階利用者エリアの管理監視への対策
複合施設 (厚別)	・上下動線やトイレ等の設備の共有により、効率化されている。	・出入口を複数設ける必要があり、利用者の出入り把握が難しい ・他施設とのつながりを意識した動線計画、施設機能配置が実現されていないため、複合施設としてのメリットを生かし切れていない。

【統計資料での他都市との比較】
約８万冊という蔵書規模は、他の自治体の地区図書館でも多く見られるが、さいたま市など蔵書数が多い自治体もある。また、資料受入数はそれほど差が大きくなっても、購入数は目立って少ない。札幌市は図書館の配置としてのサービス網は整っているといえるが、基礎的要素としての蔵書構成に量・質ともに弱点がある。

地区図書館が持つべき機能と業務内容についての調査

地区図書館が持つべき機能と業務

地区図書館に求められるサービス・業務とそれを担当すべき主体について整理

機能（役割）	サービス、業務	担当主体			
		① 設置 者	② 統 括 者	③ 専 門 員	④ 担 当 者
基本機能 1 図書館資料	地域住民のニーズを把握	◎	○		
	資料を選び収集	承認	◎	○	
	分類、配置、書誌の整備、閉架へ移動			◎	○
	除籍	承認	◎		○
基本機能 2 図書館サービス	予約取寄せ、貸出・返却対応、督促等				○
	書架への配架・返本				○
	カウンターでのレファレンス			◎	○
	情報端末の整備・保守・更新	◎	○		
生涯にわたり人の 学びを支える （世代別、ユニ バーサル、情報リ テラシー支援）	学校との連携、協力	◎	○		
	学校への資料提供・人材支援			◎	○
	ブックスタート、読み聞かせ、企画展示等		◎		○
	テーマコーナーの整備			◎	○
	大活字本、外国語資料の配架			◎	○
暮らしと仕事に 役立つ （課題解決支援、 学習機会）	IT講座の開催等		◎	○	
	区役所等との連携、協力	◎	○		
	講座・相談会の開催		◎		○
	関連機関との情報交換・共有			◎	○
地域を良くする （地域課題、ボラ ンティア活動）	共催イベント等の開催		◎		○
	市民の各種活動の把握・広報	◎	○		
	市民活動の拠点となる		◎		○
	ボランティアの募集・育成・協働		◎		○
もう一つの居場 所になる （地域情報、快適 な場、交流）	発表の場の提供	◎	○		
	地区情報を収集・展示・発信			◎	○
	飲食スペースの管理				○
	展示等の更新			◎	○
その他	点検・清掃、巡回				○
	人事管理、広報	◎	○		
	利用統計の作成		◎		○
	施設の維持管理、物品購入		◎		○

地域住民への積極的なアプローチ

比較的小さな自治体に成功事例が見られるが、大都市では図書館の組織が大きいため、地域住民へのアプローチを業務の枠に定めることが難しい。

- ・広報……ホームページだけでなく、SNSも有効。紙の広報媒体も大事にしたい。
- ・アウトリーチやコラボ……市民グループや趣味や同好のグループとの連携
- ・サポーター養成……一朝一夕には成立せず、時間の積み重ねや市民の努力によって培われる。

複合化による連携事業の可能性

公民館など親和性の高い施設と同居することで、ついで利用等の相乗効果が期待。

ただし、複合施設だから自動的に連携が生まれるわけではなく、そのための努力が必要

各専門機関との連携による情報提供機能の拡充

可能性は多方面に広がるが、顔が見える職員同士のつながりがないと円滑には進まない。

民間活力導入の効果と課題

メリット	デメリット、課題
・ 民間ノウハウによるサービス向上（ICTや接遇、観光案内、有料講座等） ・ 開館日数、開館時間の拡大 ・ 民間雇用拡大による地域の活性化 ・ 運営経費の削減	・ 現行受託者への依存、自治体側にノウハウが蓄積されない。 ・ 運営費削減のために、司書の低賃金労働化⇒司書の専門的業務の形骸化

図書館の理念やサービス、目標（ミッション）、地域社会の価値を高めるための図書館施策を実現するための方法論として指定管理者制度を捉え直し、指定管理者の管理運営体制や職能配置に応じた指定管理費用の算出が求められる。

地区図書館としての資料バランス

- ・ 本館と同じ比率での集書を基準としつつも、地域の需要や周辺環境による地区特性に応じ、特定ジャンルを強化することも実施すべき。
- ・ 貸出サービスにより、目的の資料がすぐに閲覧できない場合は多い。実用ジャンルについては、その時その場で参照できてこそ、市民のニーズに応えられる。一方で文学などは、じっくりと読むという需要が基底にあり、貸出を前提としている。

窓口やフロアワークについて

- ・ 利用者は、カウンターに向くよりも、フロアに滞在するスタッフに声がけする方が相談しやすい。フロアワークでは、質問しやすい雰囲気を中心掛け、質問には迅速・的確に回答、利用者の自由度や快適度を妨げる干渉はしない。
- ・ 自動貸出機・返却機導入後も、返却本の状態確認は継続実施が望ましい。
- ・ DX導入直後は、セルフサービスの利用促進と定着のため、フロアワークで積極的に利用をうながすことが効果的。

DX化により可能となる共用部の活用方法

- ・ 貸出手続きのセルフ化により、カウンターとその周辺スペースの縮減が可能。カウンターは従来、図書館サービスを展開するハブであったが、今後はそれに加え、本との出会いを作り出す、情報発信の場として活用して、図書館内の各資料へとつながっていく構成にすべき。

居心地の良い空間とは

「音」……利用者活動の変化により、今後は賑やかさを前提とした空間づくりが求められる。一方で、静かさに対する需要もあるので、静粛なスペースも確保することが重要。

「光」……資料閲覧のためには明るく、かつ可視光線と同等の白い光が好ましいが、滞在空間として考えた場合は、明るさを抑え赤っぽい（白熱電球のような）光が好ましい。以前は、資料保全から紫外線を避けて窓を少なくする考えがあったが、近年は、開放的な造りで外光の取り込みも大きなテーマ。

「サイン」……視認性に優れ、判読しやすいデザインや文字の大きさに配慮する。運営開始後に追加するものも施設に付随したものと違和感ないように、美観を意識すること。

「家具」……空間デザインとマッチしたものを選定。座面高さ・深さ、座り心地、机の高さの検討とともに、耐久性や汚損への対応として清掃のしやすさも重要。

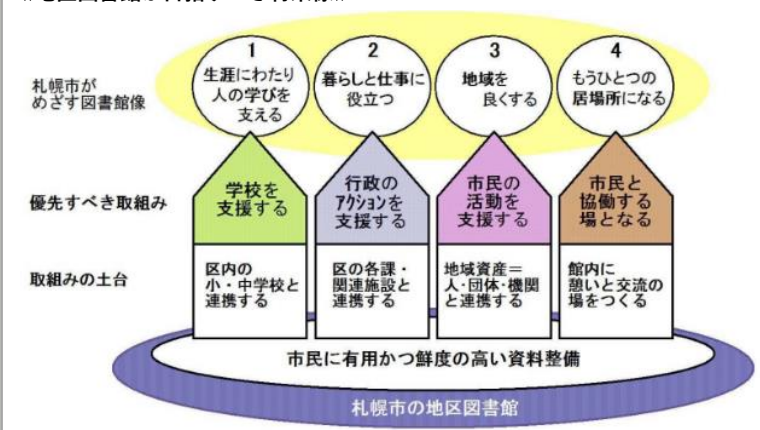
「植栽・アートワーク」……植栽について、従前は湿度が図書資料に与える影響から忌避する傾向があったが、近年では視覚的な保養等により積極的な導入が増えている。

地区図書館の将来像についての提案

地域活性化において図書館に期待が集まる理由、そして課題

- ①図書館は、まちを創る人の学びを支え、育む施設
【**学びを支える資料費の確保が必須**】
- ②図書館は、最も敷居の低い公共施設（出入り自由、無料）
【**禁止事項（特に会話と飲食）をやめ、気軽に立ち寄れる滞在型図書館へ**】
- ③図書館は、人と人、人と団体、団体同士をつなぐ施設
【**貸出中心の役割を脱し、交流・活動の拠点へ**】
- ④図書館は、地域情報拠点となる施設
【**過去の郷土資料だけでなく、現在とこれからの地域情報も**】

《地区図書館が目指すべき将来像》



4つの図書館像ごとの地区図書館が行う取組

1「生涯にわたり人の学びを支える」地区図書館～情報リテラシーを高める場に

①区内の小・中学校を支援

図書館やネット活用法を小中学生のうちに身につければ、一生の財産となる。読書支援と共に学校の調べ学習にもっと関わる必要がある。

②シニア世代への情報リテラシー教育を行う

シニア世代が社会につながり充実した生活を送るためにICTは有効だが、間違ったネット情報や詐欺にあう危険がある。地域住民の身近な情報教育の場になることが求められる。

③乳幼児から高齢者までサービス情報を届ける工夫を

年齢別のサービス活用ガイド等を作成する等、サービスの可視化に努める。

2「暮らしと仕事に役立つ」地区図書館～地域住民の情報拠点・相談窓口に

①区役所各課や各センターと連携する

図書館は、市民生活に大きく関わる区役所の各課や各種センターと連携し、地域住民と行政情報をつなぐ場所になる。分類展示に長けた図書館職員がわかりやすくチラシを整理することや、関連図書展示、講座や相談会の会場にすることも有用。

②区の産業活性化に役立つ資料の充実

区内の経営者や起業しようとしている人に対し、札幌市の経済振興施策に関する広報や、産業活性化につながるセミナー等の会場となり、関連図書の紹介を行う等。

③病院や大学などとの連携

関心が高い医療・健康情報について、区内の医療機関と連携することで、おすすめ本やトークイベント等による情報提供。

また、区内の大学とも連携し、最新研究を市民が知る機会をつくる。

3「地域を良くする」地区図書館～地域で活動する人・団体への支援

①広く地域の市民活動を支援する

地域の市民活動団体や町内会、スポーツ・文化サークルなどの活動を館内で紹介するなど。「地域の今」を発信することは「参加促進」に大きな力となる。

②図書資料・情報を活かした活動支援や場の提供

各団体の活動に役立つ資料を提供するほか、団体の活動によっては、活動場所を提供することができる場合もある。

③団体間の交流や発表の機会をつくる

活動団体を広く紹介するイベントや交流サロンをひらくことで、連携を促進。また、趣味サークルや学校の部活動の発表の場を作ることも活性化につながる。

4「もうひとつの居場所になる」地区図書館～住民も来訪者も居心地のよい場所

①館内に憩いと交流の場をつくる

カフェを設置することで、会話OK、好きに過ごしていいという「自由」がよく伝わり、若い人が多く集まり、賑わいが生まれる。

②地区の魅力をリサーチして来訪者に発信

地元の最新情報が得られる居心地の良い場所を目指し、地元のスポットや飲食店・お土産、イベント情報などを提供することで、来訪者が立ち寄る拠点とする。

③市民と協働してカフェをつくる

ワークショップを開催して、住民参加型でカフェの在り方を検討し実現することで、区の特徴を生かしたカフェが住民にとって「もうひとつの場所」となる。

④芸術や文化との思いがけない出会いを提供する展示

R4年度の市民アンケート調査でも約1/4の回答者が充実させてほしいと回答。芸術や文化に関する魅力ある資料を展示することも重要。

将来を見据えた図書館ネットワーク整備のために

◇図書館編成（ネットワーク）の視点から札幌市の弱点

- ・南北約35キロにおける広大な市域を持つ
- ・中央図書館の位置が市街地南西部に偏る
- ・区によっては、地区図書館の立地が区の端部にある、又は駅から遠い

地区図書館を再整備する際には、

- ・交通の便が良いこと。駅付近が望ましい
 - ・市民の需要に応える新鮮な蔵書をもつこと
 - ・新しい図書館サービスが展開できる施設のつくりとなっていること
- という点を重視する。

各区において地区図書館の「拠点性」を高めていくことで、区内の他の施設や区民センター・地区センター図書室とのサービス連携を強化しつつ、市民にあらゆる情報サービスを提供できる図書館編成を図る。

地区図書館のあるべき姿の実現に向けて

図書館内の機能配置としては、出入口から館内各所に至る明快な主動線設計と、利用者の動きに沿った目的別のエリア配置が重要。

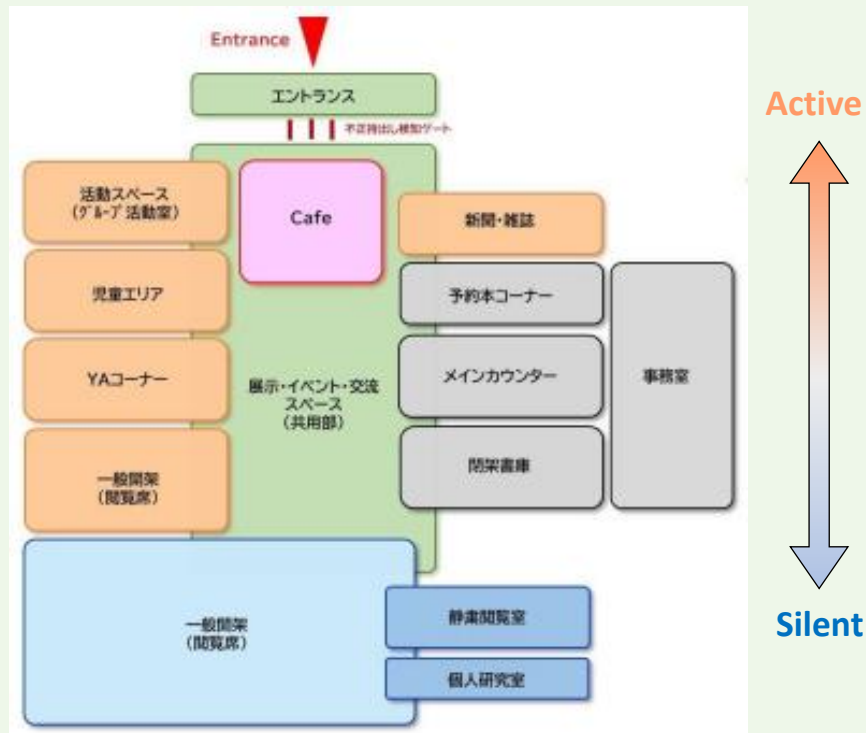


図 ゾーニングモデル

- ・ 訪問時に、図書館より特に提供を図りたい情報が提示され、それをきっかけにより詳細な情報へ進んでいける配置
- ・ 利用度合いの軽重に応じた要素ゾーニング、目的資料の入手とその後の読書行動の内容（滞留時間の長さ）に配慮
- ・ 利用者の活動によって「賑やかさ」と「静かさ」を区分け
- ・ 目的をもって来訪するだけでなく、ふらっとやってきて偶然情報に出会う「本との出会い」の機能の配置も重要
- ・ 「ふらっとやってくる」行動を実現するためにもカフェ機能の導入は重要